青少年赤十字
JRCふくしま

青少年赤十字と学校教育
…急がば回れ

福島県青少年赤十字指導者協議会副会長
郡山市立大成小学校長
車田　輝治

昭和五十五年から平成三年まで、光村図書第五学年教科用図書「銀河」には、アンリー・デュナンの伝記が掲載されていた。赤十字の創始者の生涯を描いた伝記で、子どもたちにも読みやすい内容であった。残念なことに、学習指導要領の改定などにより現在は削除され、伝記物は掲載されなくなってしまった。

当時の子どもたちは、国語科で学習していたため、赤十字創設の経緯を熟知していたし、その時分は、青少年赤十字登録式なども各学校で盛んに行われていた。昭和六十三年には、郡山市立芳賀小学校で青少年赤十字福島県指導者研修会・学校公開が開催されるなど、郡山地区の多くの学校においてJRCのバッジをつけて活動する子どもたちの姿が見られていたのである。

本年八月二十五日、文部科学省は、全国学力・学習状況調査の結果を公表した。結果によれば、本県は、国語、算数（数学）、理科の校種別・学年別十科目のうち九科目で平均正答率が全国を下回ってしまった。このことを受け、学力向上のために、特に算数・数学において興味・関心を高める努力が急務であると指摘されている。こうした背景から、学校は、「人道」「公平」「中立」などを基本原則とする赤十字の活動を重視して取り組めない状況におかれているのである。また、学校によって違いあるものの、高学年では、時数確保のため六校時授業が週に三回あり、さらに英語が教科化されれば、毎日六校時授業を行う必要が生じてくる。こうした中、JRC活動の現状と言えば、「募金活動」という程度になってしまっているのである。

本来、全国学力学習状況調査の問題内容は、実体験での学びの重要性を問うものであり、決してドリル学習の積み重ねを望んでいるものではない。学校教育と青少年赤十字のねらいは重複する部分が多く、「生きる力」でいうところの「主体性」「協調性」「たくましさ」は、同じと言っても過言ではない。また、青少年赤十字の態度目標である一つ目の「気づき」とは自分の生活や社会の問題・ニーズに自ら気づくこと、二つ目の「考える」とは問題やニーズの原因と解決のための道筋や方法を考えること、三つ目の「実行する」とは問題解決のための具体的な行動を指し、これはアクティブ・ラーニングそのものと言える。いわき市のある学校では、この態度目標を学校教育とリンクさせることによって、豊かな心をはぐくむことのみならず、学力向上にも成果があったとしている。現在、青少年赤十字の登録式を実施している学校は、福島県全小中学校の十％にも満たない。最近では、青少年赤十字の活動が、学校教育において余計なもの、あるいは無駄な取組みといった風潮がある。しかし、上述したように青少年赤十字活動のねらいは学校教育と同じであり、こうした活動を取り入れることは、確かな学力や豊かな人間性を培うことに寄与するものであると言える。だから、学力向上のヒントは、「急げば回れ」にあるのではないかと考えている。

編集発行
青少年赤十字
福島県指導者協議会
日本赤十字社福島県支部
〒960－1197
福島市永井川字北原田17
TEL024(545)7998

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.

平成二十七年度青少年赤十字
福島県指導者協議会総会開催

五月十四日㈭日本赤十字社福島県支部において福島県教育委員会教育長杉昭重様代理、義務教育課渡辺惣吾様、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長藤田伸朔様の御来賓と県内各地区の会長が出席され指導者協議会総会が開催されました。

会議では前年度の事業・会計決算報告、活動の反省、今年度の努力目標、事業計画が審議され、全て承認されました。

前年度の反省・課題を提示しその解決に向けた具体的な活動例やその効果を示し、学校、教職員、子どもたちの知識や認識を高め活動の活性化を図って課題解決の方策を話し合いました。その中でもトレーニング・センターについての意見が多く出されました。小規模校では児童生徒の役割が重複し負担が多くなっており、教職員にも同じことが言える状況のようです。年々指導スタッフが減少して

事務局校の負担が増しているなどの意見が出て、各地区の工夫や悩みがうかがえる話が出ました。

どの学校でも登録式が行われるよう働きかけていく方策が必要ではないかという意見もありました。東日本大震災それに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故から五年目に入り、学校の環境も整いつつありますがまだ厳しい状況の学校もあります。避難を余儀なくされている学校の中で震災以来初めてとなる登録式が楢葉南・北小学校で行なわれた報告が後日あり、登録式の重要性を再確認することができました。

平成26年度　青少年赤十字 福島県指導者協議会役員名簿

役職名	氏　名	学　校　名
会　長	齋藤　吉成	福島市立福島第一小学校
副会長	車田　輝治	郡山市立大成小学校
副会長	松本　光司	いわき市立好間第一小学校
副会長	佐藤　恵一	福島県立田島高等学校
監　事	安田　良一	矢祭町立下関河内小学校
監　事	佐藤　　聡	昭和村立昭和小学校
監　事	淀　　正明	浪江町立浪江東中学校

平成二十七年度後半の主な行事予定

●青少年赤十字指導者研修会並びに学校公開
期日　十月二日(金)
場所　いわき市立草野小学校
　　いわき市立草野中学校

●青少年赤十字指導者協議会第2回会長会
期日　十一月四日(水)
場所　日赤　福島県支部

●福島県高等学校青少年赤十字連絡協議会秋季総会
期日　十一月十三日(金)～十四日(土)
場所　郡山市磐梯熱海温泉
　　清陵山倶楽部

●青少年赤十字作品募集　優秀作品表彰式
期日　十二月二十五日(金)
場所　日赤　福島県支部

●指導主事対象青少年赤十字研究会
期日　一月十三日(水)～十五日(金)
場所　神奈川県葉山町湘南国際村センター

●青少年赤十字スタディーセンター
期日　三月二十日(日)～二十五日(金)
場所　山梨県山中湖村東照館

平成二十七年度 青少年赤十字指導者講習会

青少年赤十字が掲げる三つの実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実現を図るため日常生活で児童生徒一人ひとりの価値観を高める指導者の育成をはかることと青少年赤十字活動の振興充実をはかることを目的に八月十八日(火)～二十日(木)まで4ページの日程で行われました。昨年度までは国立磐梯青少年交流の家での実施でしたが昨年度の反省から今年度は郡山市青少年会館での実施になりました。小学校から二十八名、中学校から十名、高校から四名、幼稚園からと特別支援学校、本社からの初の参加もあり、総数四十五名での開催となりました。

初めて参加する先生がほとんどですが今回で四回目というベテランの先生も居ました。青少年赤十字の特徴あるプログラムである〝指示のない生活〟〝注意深い生活（掲示板の活用）〟に始まり、ＪＲＣの実践目標である「気づき」「考え」「実行する」の体感できる〝先見〟、〝ボランタリー・サービス〟、〝ワークショップ〟の講話があり、ホームルームではその実践へと進でゆきました。

主な内容と講師（敬称略）

○各班のホームルーム担当
1班　和田　有司（伊達市立伊達東小学校）
2班　箱崎　　仁（いわき市立大野第一小学校）
3班　山内　真一（会津若松市立松長小学校）
4班　板倉　恵一（いわき市立草野小学校）
5班　浜津　昌宏（青少年赤十字賛助奉仕団）
6班　松本　光司（いわき市立好間第一小学校）
7班　鴫原　　理（郡山市立谷田川小学校）
8班　松本　仁子（福島県立福島東高等学校）

○講話
「赤十字と青少年赤十字」
松本　仁子
○講話
「ワークショップについて」
松本　光司
○実技演習
「救急法短期講習」
古川　盛也・水野　栄
橋本　上・金子久仁子
○防災教育演習
「ＢＣＷ」
板倉　恵一
○講話
「青少年赤十字と学校教育」
福島大学准教授
宗形　潤子
○実技
「非常炊き出し（ハイゼックスによる）」
日赤　福島県支部
久保　芳宏

○実技
「ロープワーク」
青少年赤十字賛助奉仕団
中畑　満
○実技
「フィールドワーク」
【賛助奉仕団】
中畑　満
【指導スタッフ】
和田　有司・箱崎　仁
山内　真一・板倉　恵一
浜津　昌宏・松本　光司
鳴原　理・松本　仁子
【日赤県支部】
久保　芳宏・山田　敦代
土屋　悦男・金子久仁子
○事例発表
いわき市立草野小学校
新妻　徳子
いわき市立草野中学校
深谷　恭子
○演習ワークショップ
「学校教育への生かし方」
（各ホームルーム担当）

「指導者講習会に参加して」

天栄村立広戸小学校　渡辺　尚子

「一泊二日で研修できませんか。」研修が始まる時、私は指導講師の土屋先生にこんなことを言ってしまいました。

夏休み残り少なくなった八月十八日から二十日まで三日間、初めて青少年赤十字指導者講習会に参加しました。学校で児童会担当となり、青少年赤十字も同様となり地区の総会に出席しましたが、目的や内容もよく分からないまま研修会に参加することとなりました。「地区から推薦されました」というより「地区から何人参加しなくてはならない」という受身の参加でした。

開校式で、県青少年赤十字指導者協議会長の齋藤先生から「大切なことは、問題を自ら見付け『気づき、考え、実行する』ことです。」というお話がありました。また、福島大学の宗形先生から「青少年赤十字と学校教育」について、これからの教育で求められている「自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくこと」や「主体性、多様性を尊重する態度」等は青少年赤十字の目指しているものと同じで、大切なのは「子どもが気づくこと」と言う講話がありました。

研修では、参加者を八グループに分けたホームルームがありました。私は三班でした。講話以外の活動はホームルームごとに行われることが多く、校種は同じものの、地区も年齢も様々で、私は、最初はどんな人だろうかと不安ばかりでした。しかし、「竹ひごタワー作り」、「フィールドワーク」などの活動を進めていくうちに、次第に仲間意識が生まれていきました。「安心して失敗できる仲間がいる。」と感じました。私は助けられてばかりでした。三班はお互いをニックネームで呼び合うようになりました。

最後の活動は、一日目から進めてきた「ＪＲＣ活動をどのように学校教育に生かすか」についてホームルームごとの発表でした。私たちは「子どもたちから気持ちよくあいさつができる子にするにはどうするか」を劇などで発表しました。自分たちでテーマを決め、内容や方法を考えて行くなかで、メンバーと考え行動する楽しさや充実感を味わうことが出来ました。

振り返ってみると受身だった自分が「気づき、考え、実行する」ようになっていました。三日間必要なこともわかりました。スタッフの皆さんのおかげです。学校で何ができるか「気づき、考え、実行」したいと思います。

指導講習会に参加して

福島市立福島養護学校　川口　恭平

初めて参加させて頂いた青少年赤十字指導者講習会。受講する前は、あまり青少年赤十字の活動に馴染みがなく、「どのような事を学ぶのだろう?」タイムスケジュールを見て「ボランタリー・サービス活動って何だろう?」など、不安な気持ちが強くありました。しかし、なかなか体験することのできない講習ということもあり、三日間を過ごす上でＪＲＣについて多くのことを学び、今後の教員生活に生かすポイントを知るという目標を持ち、全力で取り組もうと考えました。

この講習会に参加し、特に考えさせられたことが二つあります。一つ目は、主催者あいさつでの「みなさんはお客様ではありません。」という言葉でした。講話、Ｈ・Ｒを受講し、その言葉の意味が分かりました。それは、青少年赤十字の活動の実践目標でもある「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」を基に、自らが進んで役割を担い責任を持ち、それを達成することで、ボランティア精神、チャレンジ精神の態度を育成するということです。これらのことを考え、お客様ではなく、班単位で活動を考え、真剣に取り組み、「他のために取り組む」「他のために自分を活かす」という前向きな姿勢で、限られた日程を有意義に過ごすことができました。私が所属した班の活動は、準備、片付け、企画・運営等など沢山の活動内容がありました。正直、なかなか自分のまとめの時間が取れず、大変でしたが、指導スタッフやホームティチャーを含め、多くの先生方の協力を頂いたことで、役割を全うすることができ、達成感を味わうことができました。今後、授業内で生徒が集団で学習する際に、お互いの意見を出し合い、参考にすることの大切さを教え、有意義な学習にしたいと思いました。

二つ目は、講話や、参加者ガイドに何度も出てきた「気づき、考え、実行する」というキーワードの意味についてでした。青少年赤十字の講習会と普段の学校生活の一場面で、このキーワードをどのように関連させればいいのだろうと考えました。すぐにはイメージが湧いてきませんでした。しかし、三日間の充実した講話や生活の中で、積極的な姿勢が問われていると考えることができました。課題に対して改善策を考えたり、ＪＲＣとの関連がある学校教育での指導方法や、学校行事の取り組み等の実践内容はどれも参考になるものでした。私は、現在特別支援学校に勤務しているため、学校での諸問題に目を向け、どのように個への対応や支援が必要か考え、実行してゆきたいと考えました。

様々な研修内容がありましたが、講習会で最も印象に残ったことは、チームワーク、コミュニケーション能力が試されたフィールドワークでした。これまで習った多くの内容の総復習となり、メンバーと協力して様々な関門を突破しました。

研修後、三日間を振り返ると、スタッフの方々の固い活動方針、理念があるので、他の研修では学ぶことができない貴重な体験をすることができました。目標に向かって真剣に取り組むことの大切さを学びました。これから行われる本校の文化祭の指導に生かしたいと感じました。少ない人数でもみんなの力が結集すると、最高の作品が出来上がる。少ない人数だからこそ個の気づきが反映されやすく、この講習で学んだ「気づき、考え、実行する」ことの大切さを忘れずに、子供たちにも、ヒントを与える工夫をしながら、一つでも多くの感動を味わわせることができるように頑張りたいと思いました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

8月18日から20日　日程表

時刻	8月18日(火)	8月19日(水)	8月20日(木)
6：00			
7：00		起床・清掃（V・S活動）	起床・清掃（V・S活動）
8：00		朝の集い	朝の集い
9：00	受付	朝食、V・S活動	朝食、V・S活動
10：00	アイスブレイク・記念写真・開講式	先見	先見
11：00	講話「赤十字と青少年赤十字」	講話「青少年赤十字と学校教育」 実践事例発表 いわき市立草野小学校 いわき市立草野中学校	「研究推進校のとして」ワークショップ「JRC活動をどのように学校教育に生かすか」
12：00	昼食	非常炊き出し　ー昼食（ハイゼックス炊飯）ロープワーク	昼食
13：00	講話「ワークショップについて」		まとめ（WSの発表）
14：00		野外活動「フィールドワーク（FW）」HR単位	閉会式
15：00	実技演習「救急法短期講習」		※V・S：ボランタリー・サービスの略。他者のために自分を活かす活動のこと。
16：00	防災教育演習「BCW」		
17：00	HR「自己紹介、役割分担、日程・内容等の確認について」	フィールドワーク講評 HR「活動の反省、一日の振り返り、これからの見通し等」	
18：00	夕食・入浴	夕食・入浴	
19：00	HR「V・S／ワークショップについて、交流会対応等」	HR「V・S／ワークショップについて」	
20：00			
21：00	交流会		
22：00	情報交換（スタッフ打ち合わせ）	情報交換（スタッフ打ち合わせ）	
23：00	消灯・就寝	消灯・就寝	

平成二十七年度 日本赤十字社福島県支部主催・復興支援事業 国際交流事業「フィリピン派遣」

青少年赤十字活動の実践目標である「国際理解・親善」活動の一環として世界に目を向け海外の青少年赤十字メンバーとの交流を通じて、国際性豊かな青少年の育成し、本県青少年赤十字活動のより一層の推進をはかることを目的に実施されました。東日本大震災に伴い中断されましたが関係各位の後押しがあり派遣が復活され三年目になります。昨年度からは復興支援事業の一つとして青少年赤十字加盟校と原発事故により移転を余儀なくされた八校と「ふたば未来学園高等学校」に参加の希望者を募りました。東日本大震災による地震・津波に加え東京電力福島第一原子力発電所の事故等の現状と復興を伝えるとともに、支援を受けたことに対しての感謝を伝え交流を図りました。

参加者

山口愛由美（福島高校二年）、小松　紗綾（福島成蹊高校二年）、大木　信二（学法東稜高校二年）、佐藤　祐樹（学法福島高校三年）、髙橋　里加（あさか開成高校二年）、田代　美月（白河実業高校三年）、箱崎　瑠依（東日本大学附属昌平高校二年）、菅野　勇一郎（本宮高校教諭）、吾妻　美和（あさか開成高校教諭―団長）、他支部職員二名

合計十一名

●日　程

月　日	内　容
8月9日(日)	移動日
8月10日(月)	フィリピン赤十字本社訪問、マニラ支部訪問、マニュエル高校訪問・交流会、市場見学
8月11日(火)	ケソン支部訪問、ルパン・パンガコ小学校訪問・交流会、ソルト・パヤタス訪問（集落視察、家庭訪問、リカセンター見学）
8月12日(水)	バタアン支部見学、バタアン公立高校訪問・交流会、バタアン支部職員・バタアンユースメンバーとの交流夕食会、バンガラマーケット見学（戦争資料）
8月13日(木)	公設市場見学、サマット山戦争資料館見学、バタアン原発見学
8月14日(金)	ラスピニャス支部見学、リサイクルセンター見学、モールオブアジア見学、フィリピン本社お別れ夕食会
8月15日(土)	移動日

フィリピンで学ぶ内容を①平和、②格差社会、③環境問題、④エネルギー問題の４点をキーワードに国内だけでなく、地球規模の視点に立ちこれらの問題につき、気づき、考え、実行してゆきたいと派遣メンバーは思いました。

平成二十七年度 青少年赤十字国際交流事業「フィリピン派遣」に参加して

福島県立あさか開成高等学校　吾妻　美和

日本赤十字社福島県支部主催の復興事業の一環であるフィリピン派遣研修に、県内ＪＲＣメンバーの代表七名と引率顧問二名、日赤福島県支部職員二名の合計十一名が参加しました。フィリピン赤十字本社や各支部を訪問し、東日本大震災後の支援に対する感謝を表し、お互いの協力関係を確認し合うとともに、小学校、中、高等学校では日本紹介を含めて交流活動を行いました。

事前研修での初顔合わせから実際の派遣までの約二ヶ月、派遣における意義や目的について学ぶと共に、交流内容についての検討と準備を重ねました。加えて、各自の派遣におけるテーマを考え、フィリピンの医療や衛生問題などのテーマが定まるとともに派遣に対する意識が高まるのが感じられました。

派遣研修は、フィリピン赤十字本社の新社屋の見学から始まり、マニラ支部の他に、ケソン支部、バタアン支部、バランガ支部、ラス・ピニャス支部を訪問しました。各支部では支部長をはじめ、関係する方々が集まってくださり、福島からの派遣団の訪問を喜んでいただきました。特にバタアン州のバランガでは、一泊二日の滞在中、レッドクロスユースボランティアと行動を共にし、バタアン原発見学や市内見学、サマット山や戦争記念博物館見学を行いました。派遣メンバーやユースメンバーは、英語や日本語を混ぜて交流を図りながら友情を深めており、バランガを発つときには別れがたさを感じたようでした。

滞在中に小学校、中学校、高校の三校を訪問しましたが、いずれも学校をあげての大歓迎で、子どもたちのハイレベルな歌や演劇、地域別のダンスなどに驚くと共に大変

感激しました。そして、研修中に訪れた学校はどこも、書道や絵描き歌、日本の伝統的な遊びやよさこいなど、日本文化紹介に大変興味を示してくれました。日比の間には歴史的に複雑な思いがあるのも事実でしょうが、若い世代のこうした交流が新しい関係を築く礎になってくれるものと期待しています。

今回の派遣で私たちは、フィリピンの方たちのあたたかい気持ちに触れ、その笑顔の一方で、貧困と闘いながらもたくましく生き抜こうとする人間の強さにも触れました。国際化が求められる今の日本において、私たちにできる支援とは何か、国際親善の在り方について考えさせられる七日間でした。この貴重な機会を与えていただいた日本赤十字社福島県支部の方々、関係者の方々に心から感謝し、今後のＪＲＣ活動にこの体験を生かしていきたい。

貧困の中にある希望

福島県立福島高等学校
山口愛由美

安全に眠ることができる場所があり、食べ物に困ることがなく、蛇口をひねれば安心して飲める水が出てくる環境の下で暮らす私たち。貧困については、テレビで見たり、ネットや本で調べたりと、自分なりに考えていたつもりではいましたが、実際に現地に行き、自分の目で見て心で感じたものは、それとは大きく異なりました。まさに、「百聞は一見に如かず」でした。初めての海外と初めての飛行機に対する不安を抱えながら出発しましたが、それ以上の学びが得られた七日間はあっという間に過ぎました。

フィリピンでは、多くの場所を訪れましたが、その中でもソルトパヤタス地区のことを少しでも皆さんに知ってほしいと思います。皆さんは、あふれるごみによって自分の生命が脅かされることがあるかもしれない、と考えたことがありますか？ごみの中からアルミやプラスチックを探し、家族のために働く子供の姿を想像できますか？ごみの山と聞いても、一体どの位の大きさなのか全くわからない人もいると思いますが、その大きさは東京ドームの約五・六倍もあります。そして、その地で、実際に暮らす人々がいるのです。二〇〇〇年には、ごみ山が崩落し、死者行方不明者二百～千人という事故が起こりました。その事故で腕を失くした息子を持つある女性に話を聞きました。派遣メンバーの一人が、「幸せを感じるときはいつですか？」と質問をすると、それに対して彼女は涙を流しながらこう答えました。「…。幸せな時を探そうとしたけどないなぁ。あるとすれば、家族といるときです。」これを聞いたとき、私は胸が苦しくなりました。ごみがここまで人を苦しめるのか、と。同じ地球に生を受けた人間として、国境を越え共に生きるため、厳しい状況の中で生きている人々のことを理解し、少しでも行動しようとする気持ちが大切なのではないか、と強く感じました。さらに驚いたことに、ソルトパヤタスの方々は、この状況の中で心をふさぎ落ち込むのではなく、「パヤタス＝ごみ山」というイメージを変えたいと前向きに頑張っているのです。私たちも簡単に夢を諦めたり、弱音を吐いたりせずに困難を乗り越えていく勇気を持ちたいと思いました。そしてこの文章を通して少しでも貧困について興味を持って一緒に行動してくれる人が増えてくるとうれしく思います。

今回、派遣に参加するまでの不安はとても大きかったのですが、今では、この派遣に参加し、多くのことを学び、感じることができたことに本当に感謝しています。自分自身が成長できたと思います。フィリピン派遣によって得た財産をこれからの生活の中で活かしながら、一人でも多くの人にこの経験を伝えられるように努めていきます。

27年度　各地区トレセン、指導者研修会・講習会　開催状況

		地　区	月　日	会　場	参加人数（概　数）	主　な　内　容
トレーニングセンター	小・中	福島・伊達・安達	7月30日㈭	福島一小	30	レクリエーション、救急法、フィールドワーク
		郡山	7月31日㈮	郡山少年自然の家	70	講話、グループワーク、フィールドワーク
		西白河	8月19日㈬	表郷小	52	救急法、炊き出し
		会津若松・北会津	7月31日㈮	国立磐梯青少年交流の家	52	講義、救命救急法、フィールドワーク
		耶麻	7月28日㈫	山都中	70	演習（簡易テント設営、災害時の着火方法と火起こし・なべ炊飯）、救急法
		両沼	7月31日㈮	福島県会津自然の家	87	講話、救急法、フィールドワーク（宇宙大作戦）
		いわき	8月7日㈮	いわき好間第一小学校	40	講話、救急法、レクリエーション、防災教育プログラム
	高校	県高校	7月9日㈭～11日㈯	国立磐梯青少年交流の家	71	国際人道法、GW、FW、救急法、防災、国際理解、ワークショップ
		県北	8月4日㈫、5日㈬	支部	23	国際人道法、障害者理解、非常炊き出し、福祉レク、防災
		県南	8月1日㈯～2日㈰	郡山市青少年会館	53	国際理解、救急法、非常炊き出し、フィールドワーク、GW
		会津	8月7日㈮	国立磐梯青少年交流の家	27	赤十字概論、活動報告、非常炊き出し、救急法
		いわき	8月4日㈫	平商業高校	49	いわき血液センター見学、救急法、講演、グルププワーク

	地　区	月　日	会　場	参加人数（概　数）	主　な　内　容
指導者研修会・講習会	福島、伊達、安達	7月30日㈭	福島一小	24	講義、救急法
	岩瀬	5月7日㈭	文化の森てんえい	36	講話
	石川	6月15日㈪	山白石小	18	講義、救急法
	田村	6月10日㈬	船引公民館	39	救急法
	西白河	6月25日㈭	白河一小	33	講義、救急法
	東白川	6月15日㈪	棚倉小学校	24	講話、スポーツ障害予防のためのテーピング
	会津若松・北会津	7月31日㈮	国立磐梯青少年交流の家	12	講義、救急法
	耶麻	7月28日㈫	山都中	15	防災講演、防災時の救急法、非常炊き出し
	両沼	7月31日㈮	福島県会津自然の家	28	講義、救急法、
	いわき	8月7日㈮	いわき好間第一小学校	10	講義、救急法、防災教育プログラム
	相馬	5月28日㈭	南相馬市鹿島区ふれあいセンター	44	講演

防災教育セミナー開催される

日本赤十字社が作成した「青少年赤十字防災教育プログラム―まもるいのち　ひろめるぼうさい―」が学校教育において積極的に活用され、青少年が自然災害に関する正しい知識を理解し、自らの命を守る方法を学び、また、他者への思いやり、いのちの大切さを感じ取る力を育むことができるようにすることを目的として防災教育セミナーが全国で開催されました。福島県では県単独で八月三日㈪猛暑の中、福島県教育委員会の後援をいただき実施されました。

各地区から指導者協議会会長二十六名を含め三十八名、青少年赤十字賛助奉仕団、北海道からも参加され総数四十四名の参加者での研修となりました。「青少年赤十字防災プログラム―まもるいのちひろめるぼうさい―」の冊子を利用しての演習に先生方は真剣に取り組まれていました。「学校に戻り早速活用したい。」という声が多く上がっていました。

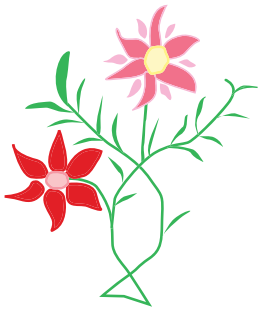
開会式
講　話　「青少年赤十字防災教育プログラムの概要 講師　松本　光司 先生（いわき市立好間第一小学校）
演習①　「防災コミュニケーションワークショップ『竹ひごタワー』」 講師　菅野勇一郎 先生（福島県立本宮高等学校）
演習②　「グループワーク『ストーリーを完成させよう』」 講師　シェルパ愛子 先生（福島県立白河旭高等学校）
演習③　「グループワーク『自分だったらどうする』」 講師　髙橋　誠 先生（相馬市立飯豊小学校）
閉会式

赤十字救急法受講の状況について

青少年赤十字の実践目標の１つに「健康・安全」があります。多くの学校・団体で「健康・安全」を実践しようと各地区 TC などを利用して救急法を受講しました。（９月19日現在）

平成27年度赤十字救急法受講状況

日時	学校・団体	受講者	人数
基礎講習			
７月28日	福島県磐城第一高等学校	JRCメンバー	15
８月１日	高等学校県南地区連絡協議会	JRCメンバー	16
８月17日	高等学校県北地区連絡協議会	JRCメンバー	28
８月25日	東日本国際大学附属昌平高等学校	福祉コース第２学年	28
養成講習			
７月29～30日	福島県磐城第一高等学校	JRCメンバー	15
８月18～19日	高等学校県北地区連絡協議会	JRCメンバー	28
８月26～27日	東日本国際大学附属昌平高等学校	福祉コース第２学年	28
短期講習			
６月２日	福島県立白河第二高等学校	生徒８名、教職員５名	13
６月５日	白河市立みさか小学校	教職員、保護者	28
６月８日	郡山市立朝日が丘小学校	教職員、保護者	50
６月10日	青少年赤十字田村地区指導者協議会	田村地区小・中学校教職員	39
６月12日	郡山市立高瀬小学校	６年生、教職員、保護者	81
６月15日	青少年赤十字石川地区指導者協議会	石川地区JRC指導者	18
６月17日	いわき市立草野小学校	小学６年生	80
６月17日	いわき市立草野小学校	教職員、保護者	56
６月19日	会津若松市立一箕小学校父母と教師の会	教職員、保護者	60
６月19日	郡山市立熱海中学校	教職員	12
６月22日	須賀川市立阿武隈小学校	教職員、保護者	39
６月23日	郡山市立緑ヶ丘第一小学校	教職員	29
６月24日	郡山市立永盛小学校PTA	教職員、保護者	68
６月25日	青少年赤十字西白河地区指導者協議会	JRC担当教師	33
６月25日	中島村立吉子川小学校	教職員、保護者	28
６月26日	白河市立信夫第二小学校	児童、教職員、保護者	38
６月26日	白河市立白河第二小学校	教職員、保護者	52
６月26日	矢吹町立三神小学校	教職員、保護者	50
６月30日	郡山市立桜小学校父母と先生の会	教職員、保護者	44
６月30日	いわき市立錦東小学校	教職員、保護者	30
６月30日	郡山市立守山小学校	教職員、保護者	36
６月30日	郡山市立行健小学校父母と教師の会	教職員、保護者	42
７月２日	白河市立五箇小学校	教職員、保護者	45
７月３日	郡山市立高倉小学校	教職員、保護者	29
７月３日	郡山市立柴宮小学校PTA	児童、教職員、保護者	62
７月３日	二本松市立渋川小学校	教職員、保護者	41
７月３日	二本松市立渋川小学校	児童（５、６年生）	30
７月３日	本宮市立白岩小学校	児童、教職員、保護者	90
７月４日	田村市立瀬川小学校父母と教職員の会	教職員、保護者	37
７月５日	郡山市安子島小学校	教職員、保護者	31
７月７日	福島市立佐原小学校	保護者、教職員	28
７月７日	伊達市立小手小学校	児童、教職員、保護者	23
７月７日	福島市立平田小学校	教職員、保護者	19
７月８日	二本松市立石井小学校	教職員、保護者	40
７月８日	会津若松市立日新小学校教養委員会	教職員、保護者	23
７月８日	郡山市立橘小学校父母と先生の会	教職員、保護者	41
７月８日	二本松市立原瀬小学校	教職員、保護者	27
７月９日	猪苗代町立緑小学校父母と教師の会	児童、教職員、保護者	46
７月９日	本宮市立五百川小学校	教職員、保護者	51
７月９日	福島市立水原小学校	教職員、保護者	18
７月10日	郡山市立富田東小学校	教職員、保護者	46
７月10日	福島県高等学校 青少年赤十字指導者協議会	JRCメンバー（高校生）	10
７月10日	三春町立中郷小学校	教職員、保護者	56
７月10日	福島市立荒井小学校	教職員、保護者	19
７月10日	白河市立白河第五小学校	教職員、保護者	13
７月11日	田村市立要田小学校	教職員、保護者	29
７月13日	三春町立岩江中学校	全校生徒、教職員	124
７月14日	郡山女子大学附属高等学校	教職員	25
７月14日	鏡石町立第二小学校	児童、教職員、保護者	74
７月15日	郡山市立二瀬中学校	生徒	35
７月15日	いわき市立平第五小学校	教職員、保護者	43
７月16日	田村市立船引南中学校	中学３年生	21
７月17日	棚倉町立棚倉中学校	教職員	31
７月23日	福島県須賀川養護学校	教職員	35
７月23日	白河市立白河第三小学校	教職員、保護者	26
７月28日	青少年赤十字耶麻地区指導者協議会	小・中学生、教職員	78
７月30日	青少年赤十字県北地区指導者協議会	小学４年生～中学１年生	30
７月30日	青少年赤十字県北地区指導者協議会	教職員	24
７月31日	青少年赤十字両沼地区指導者協議会	小・中学生、教職員	114
７月31日	会津若松・北会津地区 青少年赤十字指導者協議会	小・中学生44名 教職員12名	56
８月４日	いわき地区高等学校 青少年赤十字指導者協議会	JRCメンバー（高校生）	41
８月７日	青少年赤十字いわき地区小中学校指導者協議会	小・中学生、教職員	40
８月７日	会津地区高等学校 青少年赤十字連絡協議会	会津地区JRCメンバー （高校生）	21
８月11日	国見町／国見町赤十字奉仕団	国見小学校３～６年生	50
８月18日	青少年赤十字福島県指導者協議会	JRC指導者（小中高教師）	45
８月19日	青少年赤十字西白河地区指導者協議会	小・中学生、教職員、保護者	57
８月28日	本宮市立本宮第一中学校	中学生	39
９月14日	須賀川市立長沼小学校	５年生27名、教職員３名	30
９月16日	田村市立移中学校	生徒42名、教職員12名	54
水上安全法			
７月13日	いわき市立小名浜東小学校（＊）	児童・教職員	315
７月21日	本宮市立本宮まゆみ小学校	教職員	10
８月28日	本宮市立和田小学校	児童・教職員	47
９月９日	いわき市立好間第一小学校（＊）	児童・教職員	117
＊は着衣水泳です			
健康生活支援講習			
（養成講習）			
３月24～26日	高等学校県北地区連絡協議会	JRCメンバー	26
＊H27年度実施のところ諸事情により２月の実施となった。			



あとがき

お忙しい中、原稿をお寄せいただいた先生方始め、協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

赤十字の豆知識…❹

「国際赤十字」

国際赤十字とは赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と各国赤十字社・赤新月社の３つを総称したもので、正式には「国際赤十字・赤新月社運動」と言います。

1．赤十字国際委員会（ICRC）

五人委員会が始まりで、委員はスイス人だけで構成されています中立機関として、武力紛争の犠牲者に保護と救援の手を差しのべます。新しい各国赤十字社や赤新月社の承認、ジュネーブ条約の改訂などを行います。

2．国際赤十字・赤新月社連盟

平時における健康の増進、疾病の予防、苦痛の軽減や地震などの災害による被災者の救援活動を行います。

3．各国赤十字社・赤新月社

世界には189社が承認され（2015年10月現在）、各国で様々な活動を行っています。

国際赤十字の最高決議機関は、上記３機関の代表とジュネーブ条約加盟国政府の代表による赤十字・赤新月国際会議で、４年毎に開催です。

（現国際赤十字・赤新月社連盟 IFRC 会長は日本赤十字社近衛忠輝社長です。）